

報告

戦後 80 年企画「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」 その 2

高谷 和生

1 はじめに

先に戦後 80 年企画として提案しました「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」については、2024 年 7 月 1 日に実施した「第 16 回熊本空襲を語り継ぐ集い」当日の様子を第 323 号に、概要として「その 1」を第 327 号に紹介しました。

ここでは「その 2」として、当日参加の皆さま方とのワークショップでの取り組み様子とその後の証言色付の結果を紹介します。また、途中経過ですが「熊本県内各地への米軍側空襲記録のデータベース化の一部についても速報的に紹介します。

* 今回の「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」構成は、次の 4 項目となります。

- ①項 空襲写真のカラー化事業「記憶の解凍！」
- ②項 空襲資料の新収集事業「現物が語る記憶！」
- ③項 熊本県内での日本側全空襲のデータベース化事業「記憶の記録・集約！」
- ④項 熊本県内各地への米軍側空襲記録のデータベース化「新資料の調査・集約！」

* また、本作業の流れと到達点、啓発の姿を以下の通りです。

- ①段階 ウェブデザイナーさん等による「フォトショップ A I 画像認識」による自動色付け。
- ②段階 作成した基礎資料を、「活かす会」に等の「戦争・空襲体験者」による細部の色補正・再現、写真に関わる証言の収集、非体験世代とともにワークショップ「記憶の解凍」による共同作業。
- ③段階 併行し、「くまもと戦跡ネットとの連携調査」による、16 ミリカラー映像・スライド写真・ガンカメラ映像、各種刊行物等による客観資料を基とする資料・歴史検証作業。
- ④段階 カラー化された写真の「記憶の再現」に関わる新たな「空襲ストーリー」作成。
現在、対象とした白黒写真 4 枚は、第③段階まで完了しています。

2 空襲写真のカラー化事業「記憶の解凍！」

今回の作業対象は、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク様の承諾のうえ、所蔵される 1945 年 8 月 10 日第二回熊本大空襲での米軍撮影「白黒写真 18 枚」内の 3 枚と 8 月 7 日撮影の 1 枚の「計 4 枚」です。ここではカラー化作業の中心となる第二回熊本大空襲の概要を述べます。

米軍が沖縄に上陸して以降、日本軍の組織的抵抗が終わる前から旧日本軍飛行場を急速に整備し、6 月には本格的に米陸軍極東航空軍が移駐を開始しました。本軍は、第 5・7 航空軍から成り、所有する爆撃機のタイプ別に 8 個軍団を構成していました。

航空団	群団	戦隊	攻撃時刻	目標	機種	機数	高度	爆撃機		焼夷機(広義)		破砕爆撃機		備考 ¹⁹ 【()内の最初の区切りは Record Group, 次が Entry No. 最後が box No.											
								種類	機数	種類	機数	種類	機数												
7	319	437	9:56	工場地域	A26	8	100		5	5	7	8	5	10:05 (018/NM6 7A/3611)											
															438	都市地域	A26	8	100					09:56-10:10 (018/NM6 7A/3612)	
															439	工場地域	A26	7	100		5	4			
															440	都市地域	A26	8	100		5	3			
7	494*	864	10:09	都市地域	B24	6	11000		15	14			14	10:09 (018/NM6 7A/3168)											
															26	都市地域	B24	5	11000		15	12		12	10:12
															98	都市地域	B24	5	10500		15	12		12	
															431	各種目標	B24	5	11000		15	12		12	10:11-10:12 (018/NM6 7A/3547)
7	41	47	10:25	各種目標	B25	12	300		5	5			5	10:30 (018/NM6 7A/3529)											
															48	都市地域	B25	11	300		5	5		5	
															396	工場地域	B25	12	300		5	5		5	
															820	工場地域	B25	12	200		5	5		5	
7	507	1	10:30	各種目標	P47	45	100		24	57			57	10:30 (018/NM6 7A/3471)											
															21	都市地域	P47	20	300		24	15		15	
															34	各種目標	P47	23	200		24	16		16	
															820	工場地域	P47	200		24	16		16		
7	318	19	11:30	都市地域	P47	17	100		24	17			17	11:40 (018/NM6 7A/3677)											
															73	都市地域	P47	100		24	20		20		
															333	鉄道駅	P47	12	100		24	12		12	
															420	都市地域	B24	11	11500		15	26		26	
5	43	403	11:08-11:10	各種目標	B24	2	12500		21	4			4												
															8	各種目標	A20	13	100		5	3		3	
															8	各種目標	A20	100		6	8		8		
															8	各種目標	A20	100		24	4		4		
															13	都市地域	A26	4	100		5	3		3	
															13	都市地域	A20	9	100		6	9		9	
															89	各種目標	A20	13	100		5	2		2	
															89	各種目標	A20	100		6	9		9		
															89	各種目標	A20	100		24	4		4		
															90	各種目標	A26	3	100		5	2		2	
															90	各種目標	A20	9	100		6	9		9	
															90	各種目標	A26	100		24	3		3		
5	8	35	11:15-11:40	都市地域	P38	16	200		24	8			8	11:15-11:25 (018/NM6 7A/5464)											
															36	各種目標	P38	14	1000		24	7		7	11:30-11:40 (018/NM6 7A/5478)
															80	都市地域	P38	15	300		24	8		8	11:18-11:40 (018/NM6 7A/3705)

* 第 494 群団の 864, 866, 867 の 3 戦隊は、臨機の目標として宮崎を攻撃した。

熊本市街地への第二回目となる空襲は、8月10日9時56分に始まり、11時40分までの2時間余りの空襲です。第二回熊本空襲では、別表の通り第7航空団が先行し、第5航空団が続きました。攻撃当初の比較的高い位置からの投弾では「M47 A2焼夷弾」や「M69からなるE46集束焼夷弾」を投下しました。さらに焼夷弾の着地空白域を目標に、後半には後詰めとなる軽爆撃機（A-20・A-26）や戦闘爆撃機（P-38・P-47）が「ナパーム弾攻撃」を行ったものです。後半に投下さ



（第16熊本空襲を語り継ぐ集いでのワークショップ色づけ発表の様子）

れた爆弾は「増設燃料タンク使用のナパーム弾」及び「落下傘付きM76焼夷弾」であり、投下場所として「桜町・新市街、熊本駅・機関庫・春日校、岡村鉄工所、市立商工学校・一新校」を、新町・島崎方面を特定しました。

7月1日ワークショップでは参加された約25名が、4班に分かれ4枚の白黒写真に色鉛筆等で色づけします。また、ポストイットには色付けに関わる思いや感じた事を記入し、該当写真に貼付けます。この折は、証言者の中野喜重子さんをはじめ、敗戦時国民学校三年生だったという方も当時の呉服町や妙乗寺墓地の様子を紹介されました。最後には、各班から、彩色での「解凍された記憶」や思い等を発言・紹介いただきました。

（1）A写真：白川左岸世安町の日華護謨分工場へのナパーム弾投下

撮影概要：軽爆撃機による機上からの撮影写真です。後部席から手持ちカメラで撮影し、爆撃箇所から遠ざかる写真となります。写真内には、画面下側には白川が、上側には国道三号線と道沿いの住宅が見えます。工場は、当時防毒マスクや地下足袋等の生産を行っていた熊本駅南の田崎町にあった旧月星化成株式会社である「日華護謨工業株式会社」が白川左岸側に増築した分工場です。3棟中央の長尺建屋の屋根頂上部に対空監視所を持つ計7棟の平屋建て工場、周囲を囲む塀には、対空迷彩が施され、中央には巨大な火炎があがります。

彩色・証言等：各建物屋根部中央に太い帯線を縦断させ、屋根角部から壁面には同色で塗彩し、一部には斑点迷彩も見えます。1945年3月18日の三菱重工業熊本航空機製作所空襲のカラー版ガンカメラを参照して、三色（灰色・濃茶色・木目地茶色）を補色しました。また、中央火炎はその状況から「増設燃料タンク使用のナパーム弾」と想定でき、ベトナム戦争時火炎を参照して、黒煙・オレンジ色を強めに表現しました。

（2）B写真：市街地の白川流域である本荘町等への空襲

撮影概要：画図町・南熊本方面から市中央部へ向う軽爆撃機（A-20 他）による機上からの撮影写真です。画面中央を白川が横断し、川岸の石垣と本荘町中央の「宝珠院醤油（玉城醤油）」の煉瓦造煙突頂部がふくらんだ特徴的な白壁の大型倉庫が際立ちます。写真手前には河原町電停から延びる市電路線に停車・退避する熊本市電二両が写っています。本荘方面の家屋には、投下された165ガロンNP焼夷弾が連続して破裂している様子が確認できます。

彩色・証言等：中央部の白川は川面を明るくし、石垣や手前側の河原町妙乗寺墓地・墓石と対比させました。当地及び本荘町の一部には7月1日の第1回熊本大空襲で被災した建物を片付けて更地にした跡は、7月1日のワークショップ内で意見をいただいた通り白色を補色しました。また、手前2両の市電は木質を際立てた茶褐色と紺色にあえて別色とし当時状況を復原しました。

(3) C写真：花畑町・桜町への空襲

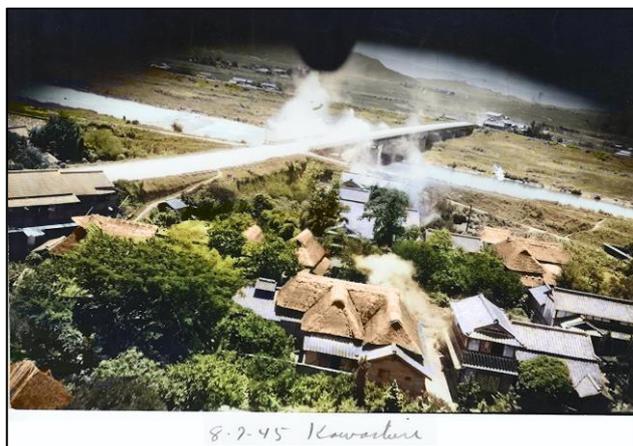
撮影概要：この写真も熊本市中央部上空で爆撃を終え通過する軽爆撃機（A-20 他）による機上からの撮影写真です。写真中央は現市民会館である熊本市公会堂と7月1日深夜の第一回熊本大空襲被災後の市街地が写っています。左側のコンクリート建物は熊本市公会堂「本館」、入母屋造り「日本館」、通り向かいには海軍人事部が使用した「洋館（現国際交流会館）」、奥には平成28年熊本地震で解体された通信省熊本貯金支局の建物が見えます。さらに右側手前には、現存する山崎菅原神社の瓦屋根が写っています。

彩色・証言等：熊本市公会堂の本館建物の屋根は防水アスファルト処理で黒色に壁面は灰色に、日本館は黒色瓦屋根と白壁を対比させました。また、戦前絵葉書に描かれたドーム形状の市民会館洋館塔屋は、銅張りであることから赤く塗り込まれていましたので、忠実に再現してみました。

(4) D写真：川尻町から富合を抜け宇土方面への国道3号自動車橋への攻撃写真

撮影概要：この写真は、米国人所有者記載にあるように1945年8月7日撮影の戦果確認用「ガンカメラ」白黒写真です。攻撃部隊・機体は特定できていませんが、沖縄からの攻撃にきた戦闘爆撃機（P-38・P-47）と想定でき、ガンカメラ主軸がズレて覆い凸部が写真に写り込んでいます。撮影地点は、緑川右岸の富合町杉島で、遠景の山裾は木原山風景林「雁回山」、斜行する道路は国道三号線、緑川橋への銃撃です。集落には瓦屋根民家とともに藁葺きの肥後型並行二棟造系民家が点在します。

彩色・証言等：藁葺きの肥後型並行二棟造系民家や周辺景色は当時状況に応じて彩色しました。遠方の宇土市方面に立ち上る煙は黒色に、手前側は機銃弾着弾時の白煙と想定でき、黒煙ではなくここでは白煙として表現しました。



(完成した写真4葉 左上がA写真、右上がB写真、左下がC写真、右下がD写真)

(5) 第一弾カラー化作業のまとめ

前回報告では、空襲写真カラー化での作業上の課題や特徴を述べました。例えば「旧来の低解像度写真ではカラー化不鮮明」「軍カメラ特性」「対象物となる複雑な被写体・構造物・町並み等は、A I 処理では不鮮明」となりやすい事などです。

初年度となる今回4枚作業で、当時の体験世代の方々4人に個別で彩色状況について拝聴するなどを行い、これらの諸課題はある程度はクリアしたのではないのでしょうか。完成したA1カラー化写真は、有償とはなりますが、県内諸学校や職域団体等へ、貸出や展示等を予定しています。

さらに、第二弾となる2025年取り組みとして次の5枚を予定しています。**E写真**：島崎町の旧熊本市立商工学校、**F写真**：本山町の岡村鉄工所とM76焼夷弾、**G写真**：北岡神社と旧国鉄鹿児島本線、**H写真**：旧国鉄熊本駅と春日国民学校、**I写真**：萩原町の西部瓦斯製造所です。

また、熊本市では昨年「熊本大空襲 平和啓発パネル展」で、「5項 当時のモノクロ写真をA1でカラー化」として、当時の「焼け跡での昼食」「熊本大空襲の罹災証明書発行風景」等8枚をパネルで示されています。カラー化作業を行われた熊日サービス開発担当者とも情報交換しながら、カラー化精度を高めたいと思います。

3 熊本県内各地への米軍側空襲記録のデータベース化「新資料の調査・集約！」

これまで九州内の空襲調査に取り組まれている「空襲・戦跡九州ネットワーク」での米軍資料集約作業を参照して、現在データベース化に取り組んでいます。一部ですが、「米陸軍航空隊第7航空団による熊本県内の空襲」を紹介します。この先は、先進事例として「静岡平和資料センター」を中心に取り組まれている「静岡空襲データベース」を先進事例として、日本側と米軍側証言の一致化についても作業を進めます。

米陸軍航空隊 第7航空団（沖縄移駐）による熊本県内の空襲

20250308 高谷作成版

月 日	目標	群団名	機種	機数	高度	通常爆弾		焼夷弾		破砕爆弾		爆弾合計	米軍資料	日本側の資料
					高さ	種類	数	種類	数	種類	数			
7月30日	熊本飛行場	494群団	B24	2	11500					M81	5	M81_5		記載なし
7月31日	熊本飛行場	11群団	B24	2	8000-10000					M81	6	M81_6		記載なし
8月1日	熊本市街地	11群団	B24	1	13700					M81	3	M81_3		記載なし
		八代の狭量	318群団	P47	18	2000	M65	18				M65_18		記載なし
8月7日	水俣	318群団	P47	17	4500	M65	17					M65_17		記載なし
		水俣の化学工場	318群団	P47	33	3000-6000	M65	33					M65_33	
8月10日	熊本(未確認目標)	413群団	P47	23	200			165 ^空 NP	16			165 ^空 NP_16		
			B25	12	300			M47A2	5			M47A2_5		
		11群団	B24	5	11000			M19	12			M19_12		
		507群団	P47	45	100			165 ^空 NP	57			165 ^空 NP_57		
	熊本市街地	413群団	P47	20	300			165 ^空 NP	15			165 ^空 NP_15		
		318群団	P47	17	100			165 ^空 NP	37			165 ^空 NP_37		
		11群団	B24	21	10500-11500			M19	50			M19_50		
		41群団	B25	11	300			M47A2	5			M47A2_5		
		420戦隊	B24	11	11500			M19	26			M19_26		熊本市史
		319群団	A26	8	100					7	8	120 ^空 Fr_8		
	熊本の工場地域	319群団	A26	8	100			M47A2	3			M47A2_3		
		494群団	B24	6	11000			M19	14			M19_14		
		413群団	P47		200			165 ^空 NP	16			165 ^空 NP_16		
		41群団	B25	24	200-300			M47A2	10			M47A2_10		
熊本駅	315群団	P47	12	100			165 ^空 NP	12			165 ^空 NP_12			

4 まとめ

次回「その3」では、②項の空襲資料の新収集事業「現物が語る記憶！③項の熊本県内での日本側全空襲のデータベース化事業「記憶の記録・集約！」」を報告します。

本年は「戦後80年」節目の年ですので、研究者・研究機関や県内報道各社との連携、行政機関・他団体との連携等をさらに進めたいと思います。